

体験博物館 千葉県立房総のむら館報

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・住・技の移り変わりを、当時の環境の中で、直接体験することができます。

開館時間 9:00～16:30
休館日 月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）
年未年始（2022年12月27日～
2023年1月2日）
臨時休館日 2023年1月5日・6日、
2月7日
入場料 一般300(240)円 高大学生150(120)円
※中学生以下と65歳以上無料。
※障害者手帳をお持ちの方と介護者1名無料。

瓦版

大木戸

Kawaraban OKIDO

Vol.69

2022年（令和4年）9月30日

編集・発行

千葉県立房総のむら指定管理者

公益財団法人千葉県教育振興財団房総のむら

〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028

TEL.0476-95-3333

<http://www2.chiba-muse.or.jp/MURA/>



足場の組み立て作業

令和四年度・トピックス展 「上総掘りでホリヌキ井戸を掘る」

会場：水車小屋前

会期：令和4年7月16日（土）

11月23日（水・祝）

当館にご来館された方は、水車小屋脇に丸太で組まれた大きな構造物をご覧いただけますかと思えます。これが上総掘りの掘削用の足場です。

今回のトピックス展は、西上総地方で生まれた井戸掘り技術「上総掘り」に焦点を当て、実際に園内でホリヌキ井戸を掘るといのが目的です。会期は、七月十六日（土）から十一月二十三日（水・祝）までです。

上総掘りの技術の特色とは

上総掘りは、江戸時代後期に上総地方に伝わった鉄棒式突掘法を工夫・改良して明治時代中期ごろに西上総地方で考案された井戸掘り技術です。鉄棒式突掘法は、鉄棒を接ぎ足しながら掘削するため、接ぎ足した鉄棒を引き上げるとは重労働でした。

掘削深度も三十から五十メートル程度です。これに対して、上総掘りは、鉄棒を鉄

管に替え、中空の鉄管内部に弁を付け、先端にノミを装着して掘り屑などを管内に取り込みながら掘り進みます。掘削深度を増すために、竹ヒゴを採用し、これを接ぎ足すことで、軽量化に成功します。また、重いホリテツカン（掘り鉄管）を引き上げるために、竹の弾力を生かしたハネギ（弾木）を用い、粘土水を注入することで井戸穴を保護しながら掘り進むことができ、百メートルを超える深井戸が掘削できるようになりました。さらにヒゴを巻き取るヒゴグルマや井戸穴の掘り屑を取り除くスイコ（吸子）、など一連の用具が整い、上総掘りの技術が成立します。

房総の地層は、九十九里方面から東京湾に向けて傾斜しており、より圧力のかかった帯水層（水を多く含む砂層）が西上総地方にあります。この地形的な特徴を利用して多くのホリヌキ井戸（掘り抜き井戸）が上総掘りの技術によって掘られ、自噴井として灌漑用水、生活用水に利用されました。やがてこの技術は全国に普及しました。

プレ企画

①講演会（六月十九日）聴講者 二十五人
当館職員地引主席研究員が「上総掘りの

歴史とその諸相」と題して講演しました。

②講習会（六月二十五日・二十六日）

体験者各八名

上総掘り職人の田中伸一氏とNPO法人理事長の仲井克己氏を講師にむかえ、「上総掘りの技術の概要と竹割り」「竹ヒゴ作り」の講習会を実施しました。

足場の組み立て

六月二十九日・三十日の両日を使い、足場を組み立てました。上総掘りの足場とは、丸太を縦横に組み合わせ、筋交いと支え木で固定したものです。当館の足場は、西上総地方のものをモデルに製作しましたが、その組み立て方法や構造には、職人の経験が反映されます。足場の高さ、柱の位置、足場板周りの道具の配置など掘削に支障が起きないように計算されています。



完成した足場

○足場の構造 足場丸太は、ヒノキを使用しました。足場の向きは東向き（掘削位置から見た方角）とし、柱を四本、横丸太を六本、側面に筋交い四本、前後方向に支え木四本、柱の固定に横木を二本の計二十本で組み立てました。

○足場の組み立て 井戸穴を基準に、柱の位置が決められます。

以下は、足場組立の主な手順です。

- ① 柱立て ハネギを取り付けるシュバシラ（主柱）とマエバシラ（前柱）を立てる。
- ② 横丸太の取り付け 足場板を渡す位置にシタヨコマルタを、ヒゴグルマの芯棒の位置にウエヨコマルタをそれぞれ番線で結ぶ。
- ③ 筋交い 補強用に柱と柱の間に斜めに取り付けける。
- ④ ハネギの取り付け 孟宗竹を二本、弓状に結わえて両シュバシラの外側上部に取り付けける。
- ⑤ ヒゴグルマの取り付け 十二枚のヌキタ（貫板）の中心にある穴に芯棒を通し、ウエヨコマルタに乗せ、内側から順に開きながらヌキタのほぞ穴にヨコザンを差し込む。
- ⑥ ヌバミズ ダメ（ドウアナ）の設置 井戸穴を中心にドラム缶の大きさの穴を掘り、その中心部分を掘りくぼめる。また、前方に掘り屑の混じったネバミズのはき出し穴を掘る。
- ⑦ 足場板の設置 シュバシラを囲むように足場板をシタヨコマルタの上に敷く。

掘削の開始

七月三十日（土）から掘削作業が始まりました。作業は土日に実施し、雨天は中止

としています。八月二十八日現在で、地表から四メートル三十九センチメートルの深さに達しています。一日の平均掘削深度は三十六センチメートルです。夏のじめじめとした暑さと蚊などに悩まされながら上総掘り技術体験者（公募）は、上総掘り職人の指導の下、着実に技術を高めています。十一月二十三日の会期末をめどに帯水層を求めて掘り進めます。

（広報・普及グループ 地引）



掘削作業の様子

上総の農家 「七夕馬」

房総のむらでは、毎年七月初旬から下旬にかけて、「七夕馬作り」の実演と体験を行っています。マコモという植物や稲ワラを使用し、馬と牛を製作します。房総のむらでは、下総・上総・安房の各地域に伝承されている技法を再現していますが、今回は上総の農家で製作している「七夕馬」について紹介します。

「七夕馬」は畑や田に欠かせなかった牛馬を労うために行う他、七夕は盆の初めの行事と位置づけられており、先祖を迎えるための乗り物として作りました。

上総地方では、七夕行事の際に子供たちがマコモ、ガマといった植物を刈りに行き、馬と牛を作り、玄関や床の間で短冊と共に飾り、団子や饅頭、赤飯をお供えします。製作した馬と牛は、翌日に家の屋根に上げる他、屋敷神の祠にお供えしました。

上総の農家で製作している「七夕馬」は、茂原市大芝地区おおいしで作られていたものを再現しています。伝承によると、大芝地区で「七夕馬」を作り始めたのは文化・文政期の頃であり、旅の僧がマコモばかりで米のとれない土地で苦しむ村人の様子を見て、作り方を伝授したとあります。

大芝地区では、この「七夕馬」を「カヤカヤ馬」と呼んでいます。本体はマコモだけでなくアオギリなど、六種類の草木を使用する他、マダケを叩いて繊維状にしたも

のを染め、赤や緑色の飾りを作ります。このため、「カヤカヤ馬」は華やかで美しく、他地区からの引き合いがありました。農家の副業として「カヤカヤ馬」を製作し、六斎市などで売っていたそうですが、現在では、七夕行事の衰退など様々な理由によって、技術を伝承する担い手も減少している状況です。

なお、令和四年に大芝地区の「七夕馬」の製作技術は、文化庁の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」として選択されました。

下総・安房の農家でも「七夕馬」を土間や玄関に展示しています。ご来館の際には、これらの伝統的な技術で製作された「七夕馬」の形の違い等をご覧になってみてはいかがでしょうか。

（農家グループ 下村）



房総のむらで実演している七夕馬製作風景（上総の農家）



七夕馬（上総の農家）

商家

「藍の染めもの」

呉服の店の裏には藍の畑があります。春に種を播き、その小さな芽を丁寧に世話することで、夏、畑は藍の葉で広がります。この葉は、夏の時期のみでしか体験できない『藍のうつし染体験』や『藍の生葉染体験』で使われます。

朝の摘みたての生葉を使う『藍のうつし染体験』は、手軽にできる体験で、絹生地のコースターに木槌でたたいて生葉の色や葉脈などをうつし出すことができます。この時に木槌でたたく音が、商家の町並みの中に響くため、足を止め体験の様子を見学されるお客様も少なくありません。また、『藍の生葉染体験』は予約が必要な人気の体験で、お客様自身で藍の葉を畑に摘みに行き、実際にその葉を使って染め液を作って染めることができます。

藍の生葉は、藍甕を使った本藍の藍色とは違い、綺麗な夏の空のような水色に染めることができます。そして、藍の色はその時の葉の状態でも変わるため、完成するまで染まった色がわからないのも楽しみのひとつです。こうして夏に活躍した藍は夏の終わり頃から花が咲き、秋に種を収穫し乾燥させ冬を越し、次の春を待ちます。

禁色が存在していた江戸時代。紫色や赤色系が禁じられていたため、庶民が使える色は鼠色や茶色、紺色などの単色でした。このような状況において、藍染は広く普及

し、藍染を扱う染め物の店である紺屋が多く誕生し、その中で、淡い色合いの甕覗色や浅葱色、武士の中で縁起が良いと好んで身につけていたと言われている濃い色合いの褐色など、様々な名前を持った藍の色も生まれました。

(商家グループ 牧)



藍の葉



うつし染と生葉染

風土記の丘資料館

「新しい資料館の様子を

少し紹介します」

前回の「大木戸」でも紹介しましたが、風土記の丘資料館は、建物の大規模改修工事が終わり、現在は、展示のリニューアルのため閉鎖しており、皆様にご迷惑をお掛けしている次第です。オープンまでは今しばらくお待ちいただきますので、ここで、チョットだけですが、新しくなる資料館の施設部分をご紹介します。

まず、外見ですが、すでにご覧になった方もいらっしゃると思いますが、建物の特徴でもありますレンガの外壁は改修前のように見えます。もちろんレンガは洗浄され、レンガ以外の部分も再塗装され、きれいになっています。ただ一か所だけ大きく変わったところがあります。



大理石風壁とエレベーター

それは新たにお客様用エレベーターが設置され、その部分が今までの外観に追加されたことです。そして、入口を入ったすぐ脇にエレベーターホールがあり、その部分だけは、大理石風の壁となっており、ホテルを思わせる(?)仕上りです。また、館内にトイレ、授乳室が新たに設置され、利用しやすくなったと思います。

展示室は、第一展示室・第二展示室・回廊・第三展示室と以前と間取りはほぼ変わっていませんが、壁・天井・床が新しくなりました。また、照明も全てLEDに替え、大変明るくなったことから展示も見やすくなると思います。

以上、新しくなった資料館施設について話してきましたが、展示のリニューアルについても新しくなった施設に見劣りしないものとなるよう励んでいる次第ですので、もうしばらくお待ちください。

(風土記グループ 野口)



リニューアル中の第1展示室

「ボランティア活動記」
「緑のボランティア」

コロナで活動を休止していたボランティア活動も令和四年度から本格的に活動を再開することになりました。今回はボランティア活動記として、緑のボランティアの活動を紹介します。

緑のボランティアでは、むらの館内及び無料エリア内にある竹林や植栽を中心むらの環境整備や保全活動を行っています。このボランティア活動において今年度は各施設の竹垣造りを行いました。

房総のむらは江戸時代後期から明治時代初期にかけての商家の町並みや農家、武家屋敷などを当時の景観や環境を含めて再現



鉄砲垣



金閣寺垣

している施設です。その様な景観の再現において重要な役割を果たしているもの一つに各所に配置された竹垣があります。これらの竹垣は、景観を損なうことなく各施設の裏側が見えない様に目隠しとして機能しています。

今年度に入り製作された竹垣としては、木工所と鍛冶屋の間にある「鉄砲垣」と武家屋敷裏の「建仁寺垣」、茶室前の「金閣寺垣」があります。「鉄砲垣」は見た目が鉄砲を立て掛けているように見えることからその名がつけられたそうで、太い竹をそのまま使用しているため、重量感があり豪華な印象を受けます。「建仁寺垣」は京都の建仁寺で最初に使われたことから名付けられたとされており、割った竹を隙間なくびっしりと並べるため、主に目隠しや庭の仕切りとして用いられる竹垣です。「金閣寺垣」は金閣寺にあった竹垣をもとに作られたためこの名前がつけられたといわれており、背が低く透かしのある竹垣なため、装飾として通路の脇などに設置されることが多い竹垣です。これらの竹垣の内、「鉄砲垣」は房総のむらで採取された竹を用いて製作されており、製作期間は竹の伐採から竹垣の組上がりまで約二か月、計四回のボランティア活動を要しました。

緑のボランティアではこのほかに樹木の手入れ等も行っており、むらの植物の保全活動にも意欲的に取り組んでいます。ご来館の際には竹垣や植物にも目を向けてみてはいかがでしょうか。

(商家グループ 山本)

まつり開催時の注意事項

まつり当日は駐車場が大変混雑いたします。公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。また、館内はテント類の設営、ボール等の遊具の持ち込みは禁止です。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

◆編集後記◆

今年は夏の暑さも厳しく感じられました。その暑さも少し和らぎ、夜は虫の音が聞こえるようになってきました。稲穂もたわわに実り、むらの風景も秋色に変わり始めています。さて、今年度は民家展示として「昔の暮らし」をテーマに展覧会を開催します。昭和三十年から四十年代の衣食住を中心に身近な生活道具の移り変わりなどをご紹介します。皆様のご来館をお待ちしております。

(広報・普及グループ 水島)

令和4年度 下半期のイベント

- 秋のまつり
10月1日(土)・2日(日)
- 民家展示「昔の暮らし」
10月1日(土)～11月13日(日)
- 歴史の里の音楽会
10月9日(日)
- 房総座
10月29日(土) 落語家：柳家三之助
- ふるさとまつり
11月3日(木・祝)
- ユニセフ・ラブウォーク in 房総のむら
11月23日(水・祝)
- 日本遺産北総四都市デー
11月23日(水・祝)
- 伝統芸能入門
11月27日(日)
- むらのお正月
令和5年1月3日(火)・4日(水)
- ビックリひなまつり
令和5年2月11日(土・祝)～3月5日(日)